資料５

指標の設定方法について

1. 第2次菊川市総合計画の評価及び指標設定の振り返り

■評価及び指標設定の体系について

計画体系として、「政策」の目的を達成するための手段として、「施策」「事務事業」が位置づけられています。これにより、各指標については、「政策」は『アウトカム指標』（行政活動の成果を表す指標）を設定している一方で、「施策」「事務事業」とも『アウトプット指標』（行政活動の結果を示す指標）を設定しています。

課題点①：「施策」「事務事業」で類似した指標が設定されています。
改善点①：計画の体系的な整理が必要です。

■政策の指標数について

「政策」の指標には成果（アウトカム）を数値で示した客観指標と市民アンケート調査結果の主観指標が混在しています。

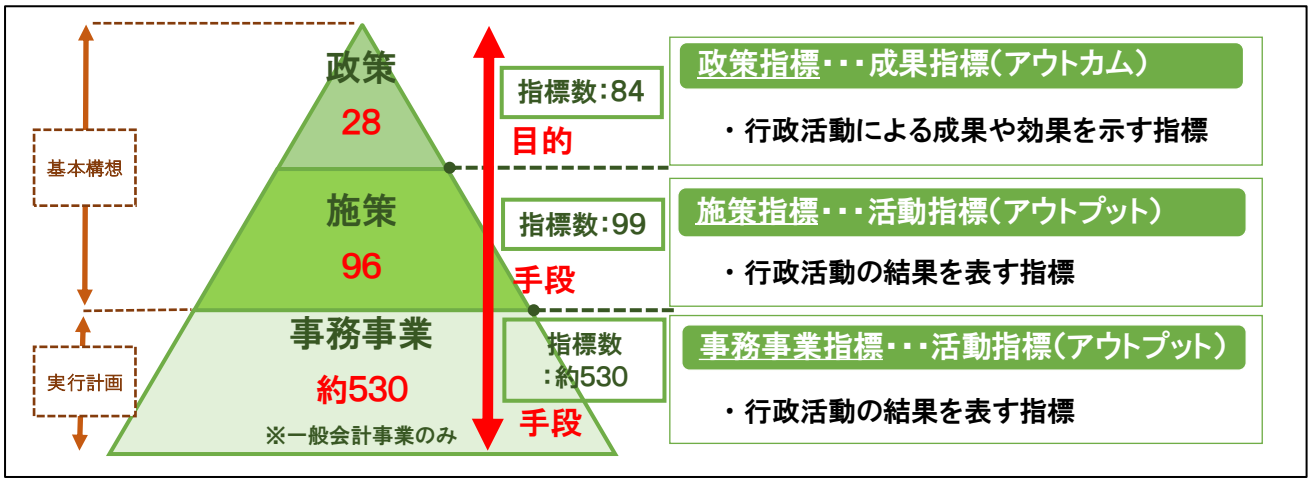
課題点②：28 項目の「政策」に対し、84 指標が設定されており、指標数が多くなっています。
改善点②：指標数の整理とメリハリをつけた評価が必要です。

■議会からの指摘事項【令和５年６月定例会での一般質問・抜粋】

市民への分かりやすさ、これをやっぱり重視していくのであれば、指標の数を選択と集中で絞った上で再検討していく、こういった考え方がどうしても必要になってくると思います。

答弁において「次期総合計画に向けての検討とさせていただきたい。」と回答

●第２次総合計画の評価及び指標設定の体系図



2. 第3次菊川市総合計画の評価及び指標設定案について

■改善点①（体系的な整理）について

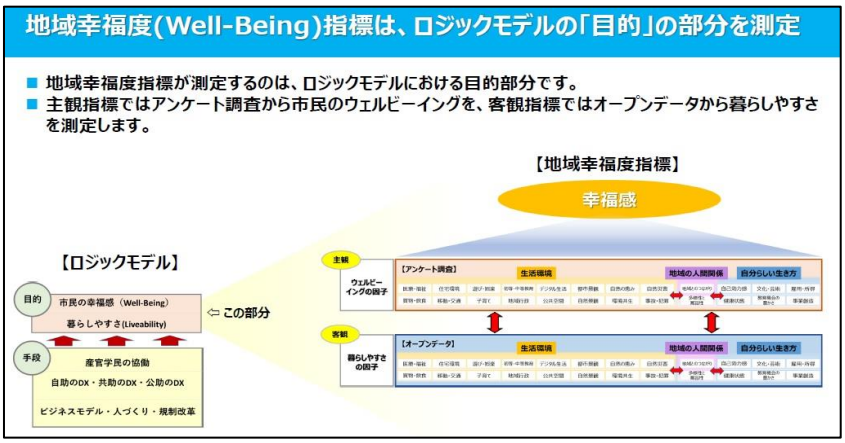
・「実行計画」（事務事業）を手段とし、「基本構想」（政策・施策）の目的を達成する体系へ変更します。

■改善点②（指標数の整理とメリハリとつけた評価）について

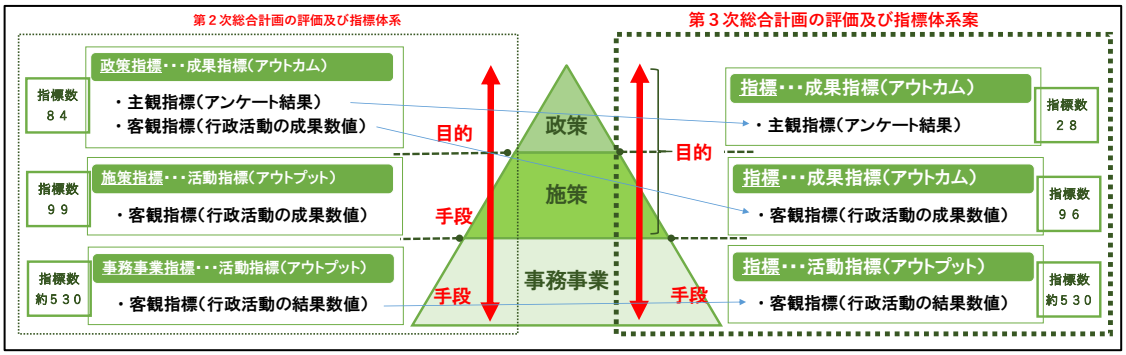
・「政策」は主観指標（アンケート調査結果）のみ、「施策」は第２次総合計画の「政策」で設定されていたアウトカム指標の客観指標を参考に設定します。

・原則、「政策」「施策」「事務事業」一つにつき、指標を一つ設定します。

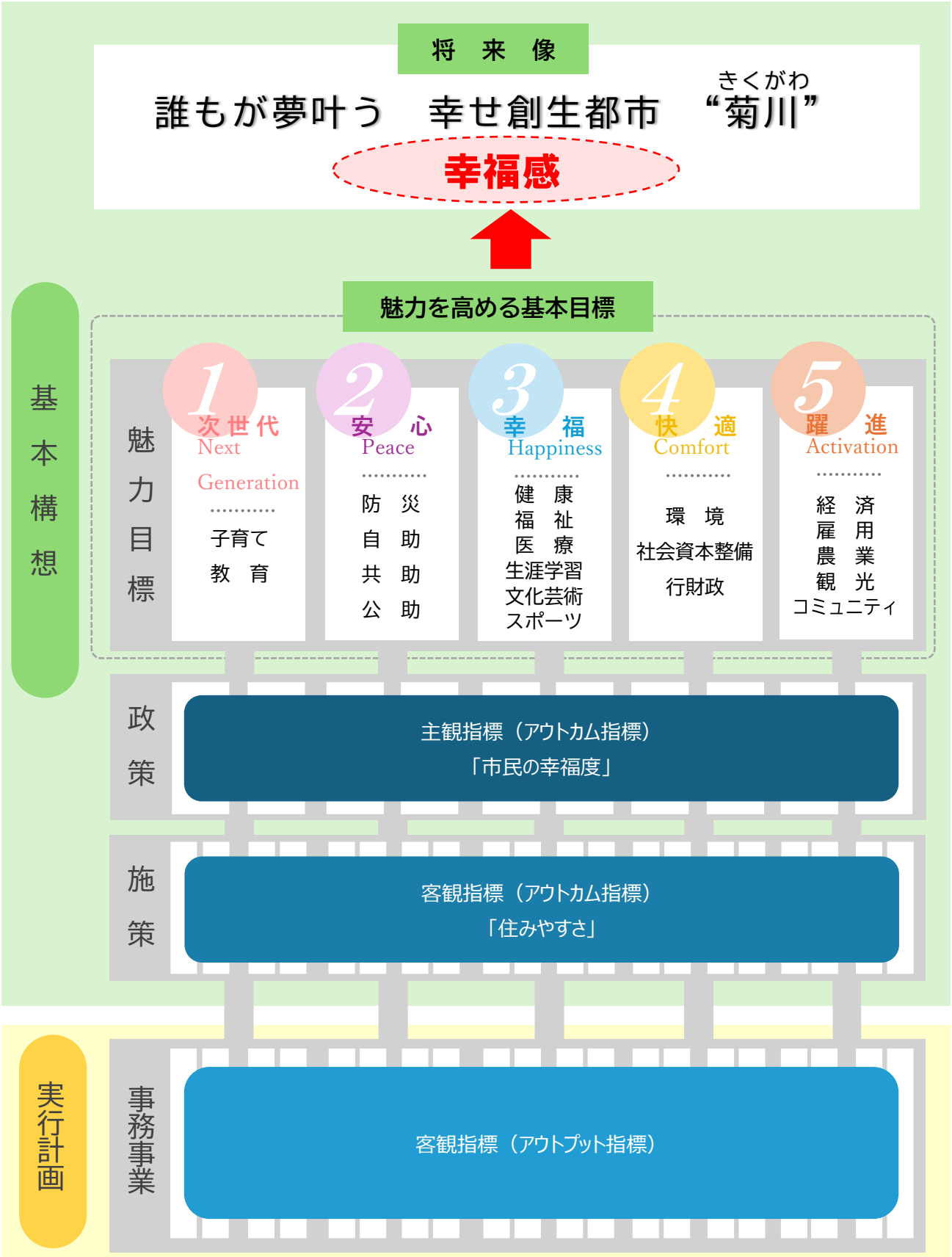
・「将来像」で掲げる『幸せ』の視点について、デジタル庁が示す地域幸福度（Well-Being）指標を参考とします。



●第２次総合計画と第３次総合計画との比較



■評価及び指標設定案

区分	評価及び指標設定の考え方	指標数	評価方法
政策	・成果指標（アウトカム） ・主観指標（アンケート結果） ・「市民の幸福感」を測定	28	内部評価 ＋ 審議会意見聴取
施策	・成果指標（アウトカム） ・客観指標（データ数値） ・「住みやすさ」を測定	96	内部評価 ＋ 審議会意見聴取
事務事業	・活動指標（アウトプット） ・客観指標（データ数値） ・事業の進捗管理と事業内容の見直し	約 530	内部評価

●第３次総合計画の評価及び指標設定案の体系イメージ